

平成23年度 東海地震 県民意識調査結果の概要

地震対策資料
No. 257-2011

このリーフレットは、平成23年11月に県内にお住まいの方2,000人を対象に実施した「東海地震についての県民意識調査」結果の主要項目をまとめたものです。



あなたは現在、
東海地震にどの程度の関心を持っていますか。

●H23.8.1 駿河湾を震源とする地震
●H23.3.15 静岡県東部の地震
●H23.3.11 東北地方太平洋沖地震
(東日本大震災)

●H21.8.11 駿河湾を震源とする地震

●H20.6.14 岩手・宮城内陸地震
●H20.5.12 中国・四川大地震

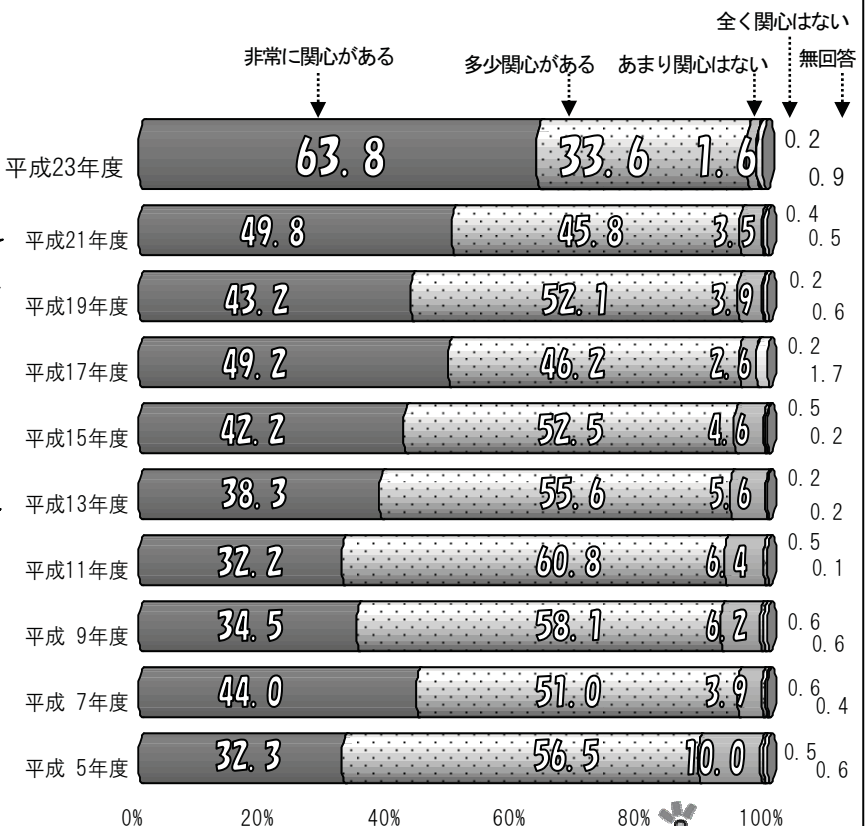
●H19.7.16 新潟県中越沖地震
●H19.3.25 能登半島地震

●H17.3.20 福岡県西方沖の地震
●H16.12.26 スマトラ沖地震
●H16.10.23 新潟県中越地震

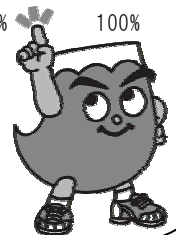
●H13.5 第3次地震被害想定結果公表
●H13.4.3 静岡県中部の地震

●H7.1.17 兵庫県南部地震(阪神・淡路大震災)

●H5.7.12 北海道南西沖地震



東海地震の切迫性が指摘されています。
地震対策をもっと身近な問題としてとらえ、
「自らの命は自ら守る」ための備えを皆で考えましょう。



- 調査区域 静岡県下30市町
- 調査対象 住民基本台帳から抽出した男女(20歳~69歳) 2,000人
- 回収率 58.6%
- 調査方法 郵送調査法
- 調査期間 平成23年10月24日~11月7日
- 調査実施機関 株式会社e-エントリー

- この中の数字は、回答に御協力くださった方1,171人を100%として集計した比率です。
- 集計の都合上、四捨五入してあるので、合計100%にならない場合があります。
- 複数回答の場合は、合計が100%を超えることがあります。
- 「無回答」は設問事項について回答がなかったものをさします。

静岡県危機管理部危機情報課

電話 054-221-2644

●危機情報課メールアドレス

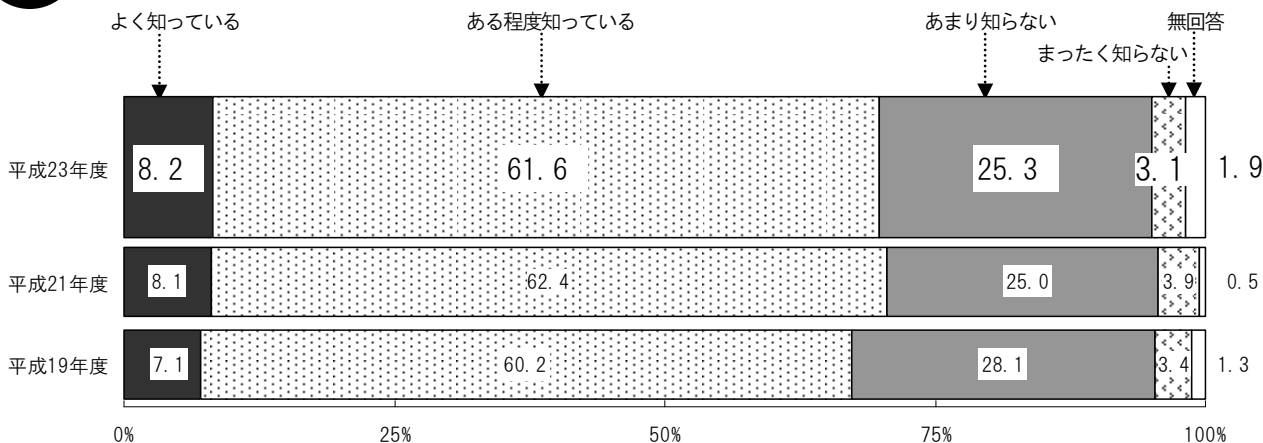
boujou@pref.shizuoka.lg.jp

●危機管理部ホームページアドレス

http://www.pref.shizuoka.jp/bousai/

東海地域では、近い将来、大きな地震の発生が想定されています。 東海地震の発生の仕組みを知っていますか？

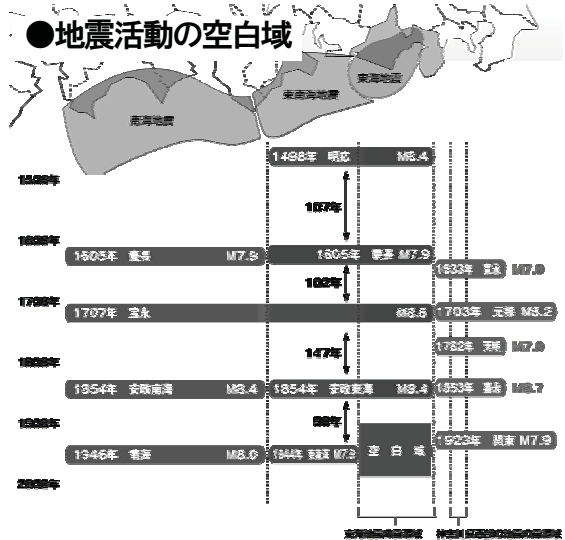
Q 東海地震が発生する仕組み（メカニズム）を知っていますか。



周期的に起こる地震

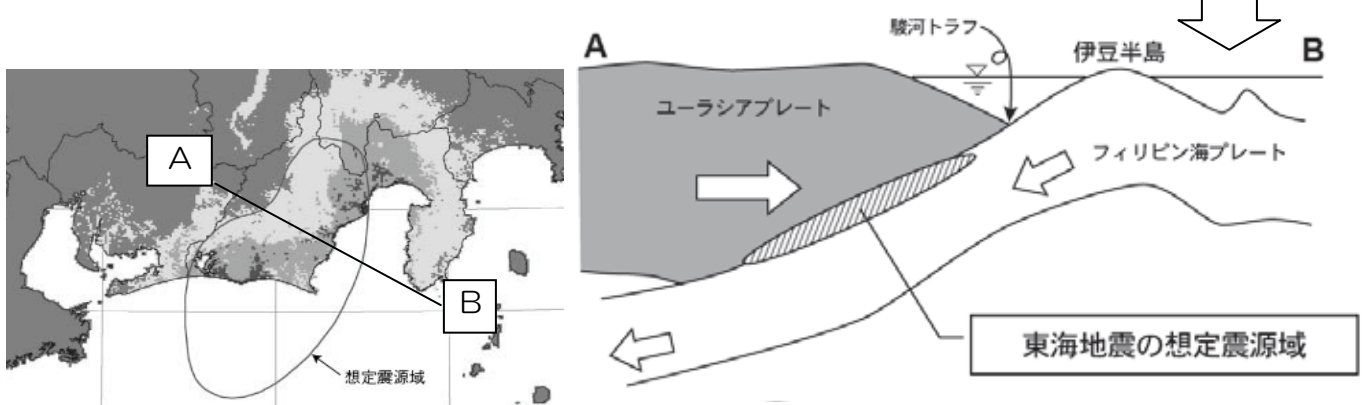
日本列島の太平洋岸では、プレートの潜り込みによる地震が一定の周期で繰り返し起こっています。特にフィリピン海プレートが潜り込む東海から四国にかけての海域では、100年から150年の周期で、ほぼ同じ場所で、ほぼ同じ規模の大地震が繰り返し起こっています。

しかし、駿河湾から御前崎沖ではいまだ地震が発生しておらず、地震のエネルギーが蓄積されていると考えられており、「地震活動の空白域」とよばれ、近い将来、巨大地震の発生が予想されているのです。



大地のひずみがたまり、破壊されると地震が起こる

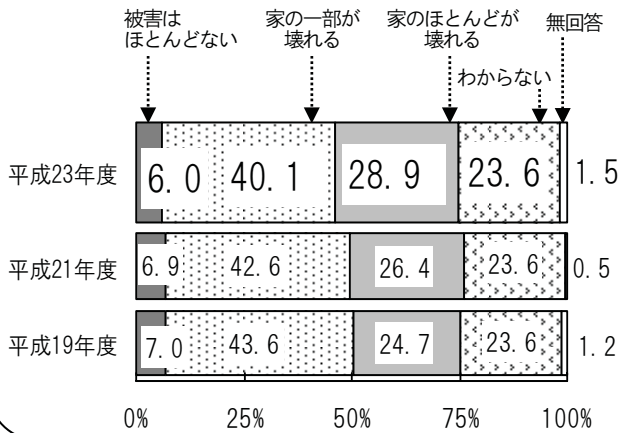
地震は、地下の一部分に大きな力がはたらいて大地がひずみ、その岩石の強さでは耐えきれなくなったとき、急にその部分が破壊されて起こると考えられています。駿河トラフといわれる大地のくぼみでは、伊豆半島を乗せたフィリピン海プレートが潜り込むときに、静岡県の中中部・西部地域などを乗せたユーラシアプレートを引きずり込んでいます。そのため、この付近で大地のひずみがどんどんたまり、このひずみが限界に達して、大地が破壊されて跳ね上がったときに大地震が起こると考えられています。



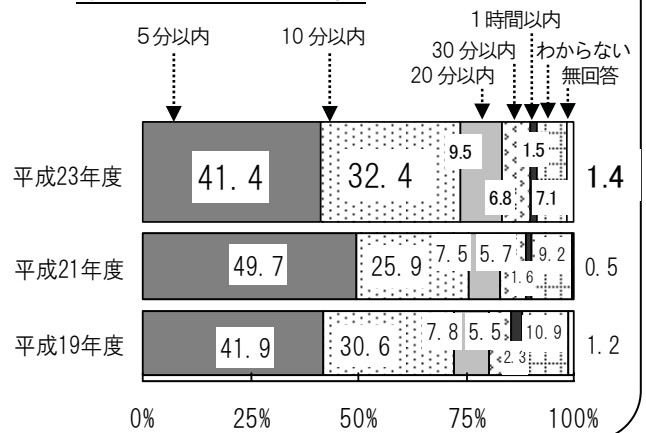
出典：中央防災会議（平成15年3月18日）資料

東海地震が発生した場合は、 大きな揺れと津波による被害が予想されます。

Q 東海地震が起きた場合、
お住まいの家はどのような
被害を受けるとお考えですか。



Q 駿河湾内で東海地震が発生した
場合、津波は、一番早いところでは地
震発生後どのくらいの時間で沿岸に
来るとお考えですか。



東海地震が発生した場合、駿河湾や遠州灘の沿岸では、早いところで地震直後に津波が襲来します。津波の速さは海の深い所ではジェット機や新幹線並みです。

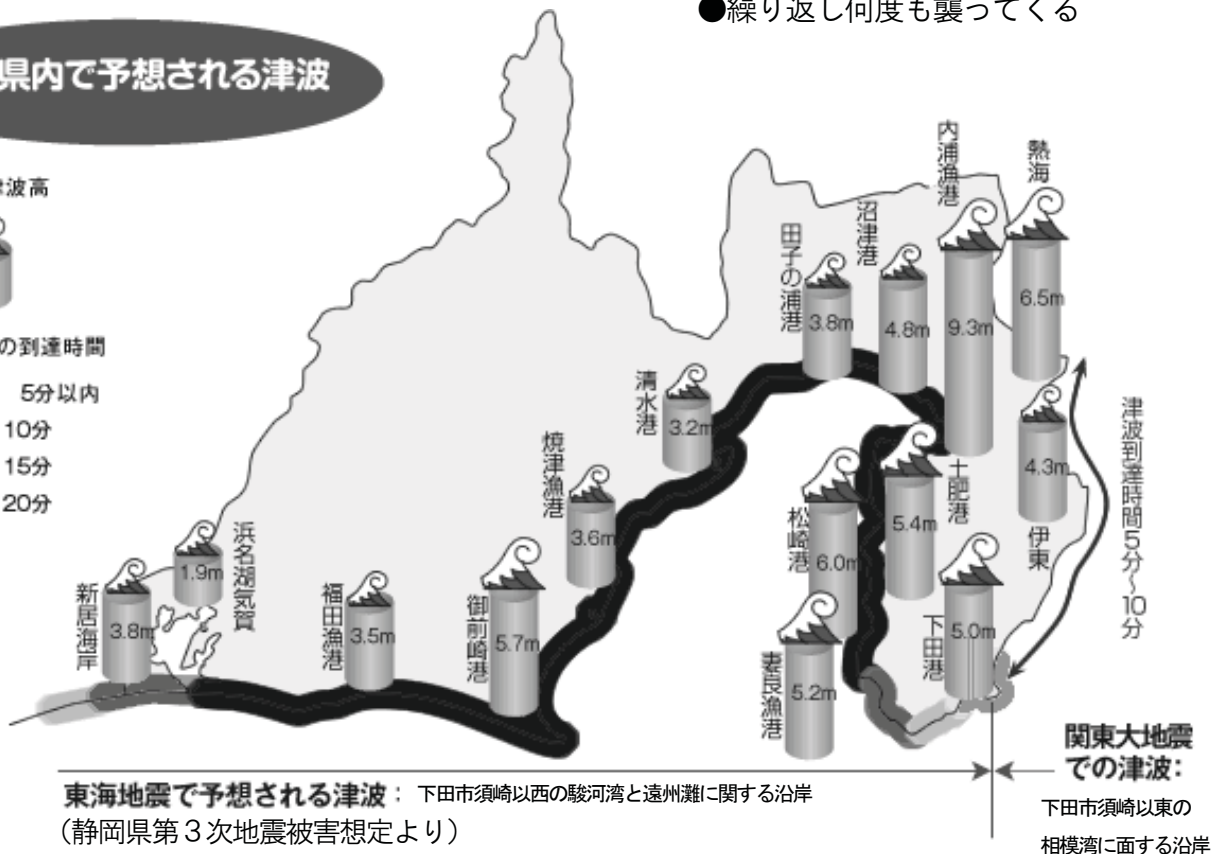
- 地震後まもなく津波が襲ってくる
- 必ずしも第1波が最大とは限らない
- 繰り返し何度も襲ってくる

静岡県内で予想される津波

●最大津波高



●第1波の到達時間



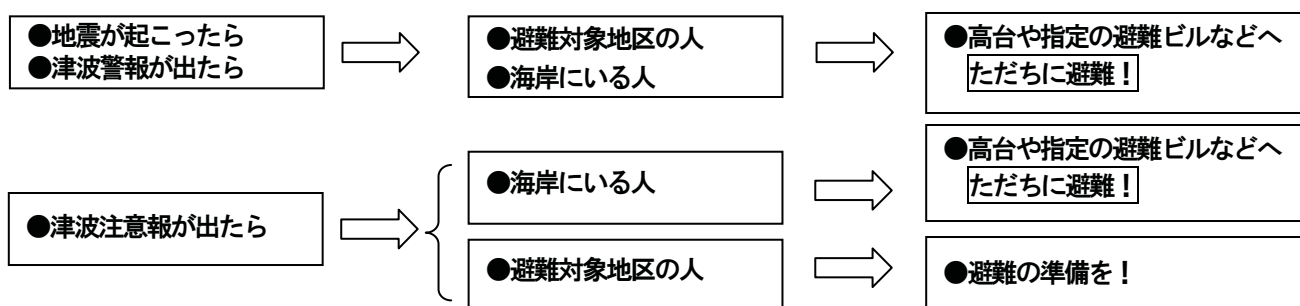
● 第3次地震被害想定（平成13年 静岡県）

建物被害（被害が最大となる冬18時）			人的被害（被害が最大となる冬の朝5時）		
被害区分	予知なし	予知あり	被害区分	予知なし	予知あり
大破	192,450棟	140,801棟	死者	5,851人	1,470人
中破	294,846棟	309,174棟	重傷者	18,654人	3,122人
一部損壊	279,433棟	291,890棟	中等傷者	85,651人	17,634人
床下浸水	6,945棟	7,041棟			
計	773,673棟	748,907棟	計	110,156人	22,226人

注 小数点処理による四捨五入の関係で合計値が合わない場合があります。

大破…倒壊したり、復旧が困難な建物
 中破…柱や基礎などに被害があり、
 復旧に大修理が必要な建物

死者…地震発生から24時間以内に死亡する者
 重傷者…手術などの入院治療が必要な者
 中等傷者…入院は不要だが医師の治療が必要な者



平成23年3月15日の静岡県東部の地震

平成23年3月15日午後10時31分頃、静岡県東部を震源とするマグニチュード6.4の地震が発生しました。

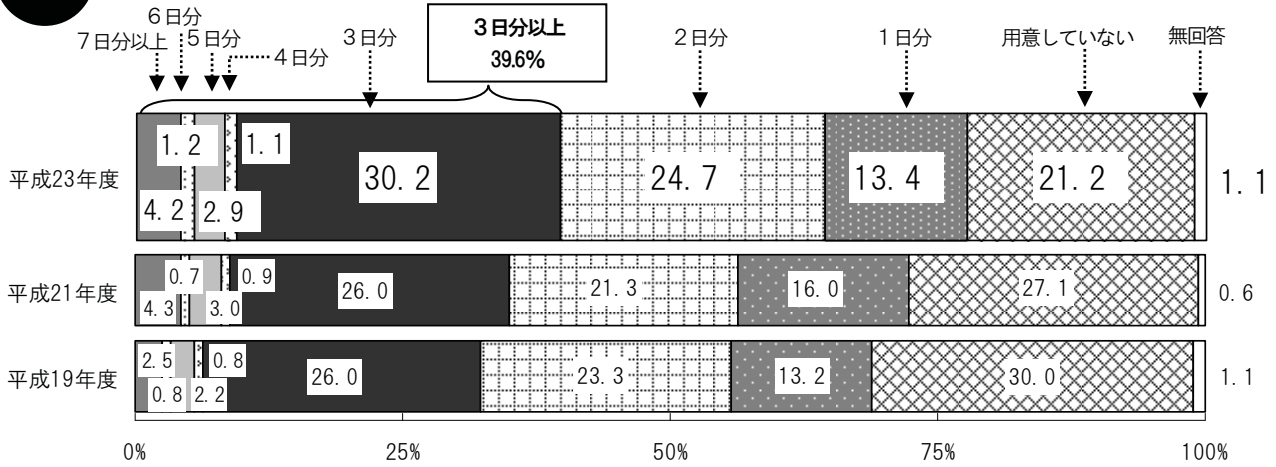
県内東部では強い揺れを感じ、富士宮市で震度6強、富士市、御殿場市、小山町で震度5弱、熱海市、函南町、伊豆の国市、沼津市、三島市、裾野市、清水町、長泉町、藤枝市、静岡市で、震度4を観測しました。

この地震により、富士宮市を中心に50人（重傷者2人、軽傷者48人）が負傷し、建物は521棟が一部損壊しました。幸いにも死者は出ませんでした。東日本大震災直後に起こったということもあり、日ごろの防災対策の重要性を改めて実感させられる地震となりました。

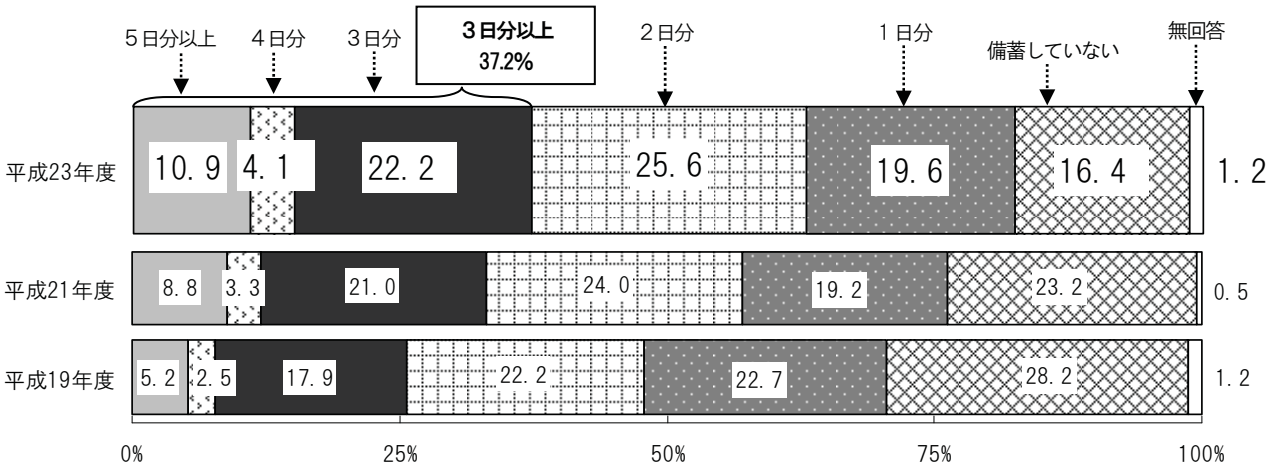


行政も、食料や飲料水をすぐには供給できません。 家庭での備えが必要です。

Q 災害にあったときの非常持出し用として何日分の食料を用意していますか。

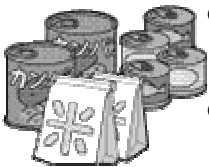


Q 何日分の飲料水を備蓄していますか。



食料の備蓄

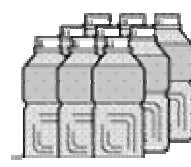
非常食で最低
3日分
備えて
おきたいのは
7日分



- 普段から調理不要の非常食 3日分を含む7日分程度の食料を準備しておく。
- 食料の点検、入れ替えを忘れずに。

飲料水の備蓄

1日1人3ℓ
3日分
(9ℓ)



- 1人1日3ℓの水を最低3日分用意する。
- 市販のペットボトル入りの飲料水でもよい。定期的に使用し、順次買い替えていく。

東海地震が発生した場合、食料や飲料水の供給活動が開始されるまでに、3日間程度必要となります。

日持ちのよい食品を備蓄し、
定期的に交換しましょう。

- 主食** 米・カンパン・インスタント食品など
- 副食** 漬け物・梅干し・佃煮・缶詰など
- 調味料** 味噌・しょう油など

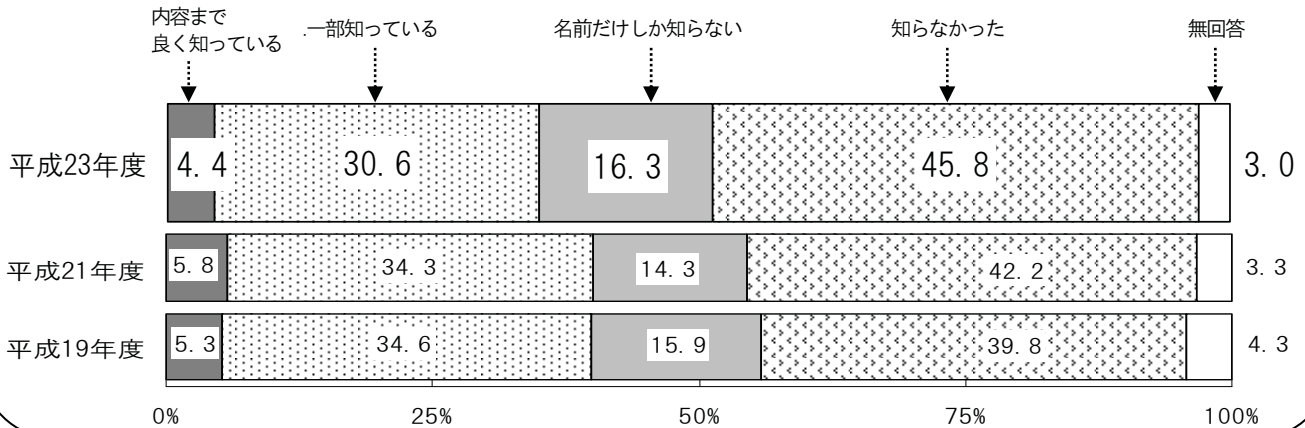
生活用水の確保として・・・

- いつも風呂に水をためておきましょう。
- 水洗トイレのタンク内の水も活用しましょう。

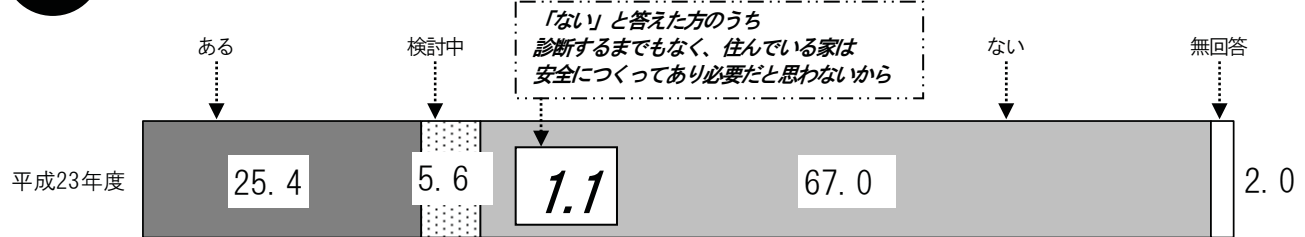
阪神・淡路大震災の死者の 約8割は家屋の倒壊等による圧死でした。 自宅の耐震診断を行い、安全性を確認してください。



県では、木造住宅の耐震化促進事業「プロジェクト“TOUKAI-0”」を推進しています。この事業の内容は、①無料耐震診断、②耐震補強計画の策定への補助、③耐震補強工事への補助の3項目からなっています。このことをご存知でしたか。



耐震診断をしたことがありますか。（昭和56年5月以前建築の木造住宅居住者対象）



※ 平成23年度から、昭和56年5月以前に建築された木造住宅居住者を対象とした設問に変更

阪神・淡路大震災では、昭和56年5月以前に建築された旧耐震基準の木造住宅に大きな被害が出ました。地震で大切な命を失わないためには、地震で倒壊しない住宅にする必要があります。

そのため、静岡県では市町と連携して、木造住宅の耐震化を促進するプロジェクト「TOUKAI（東海・倒壊）ー0（ゼロ）」を推進しており、建築士などの専門家による耐震診断を無料で受けることができるほか、耐震補強工事費の助成なども行っています。

耐震補強工事には 補助金が出ます。

専門家による耐震診断により、「倒壊する可能性が高い」、「倒壊する可能性がある」と判定された旧耐震基準の木造住宅を耐震補強工事する場合には、県及び市町から補助金が出ます。

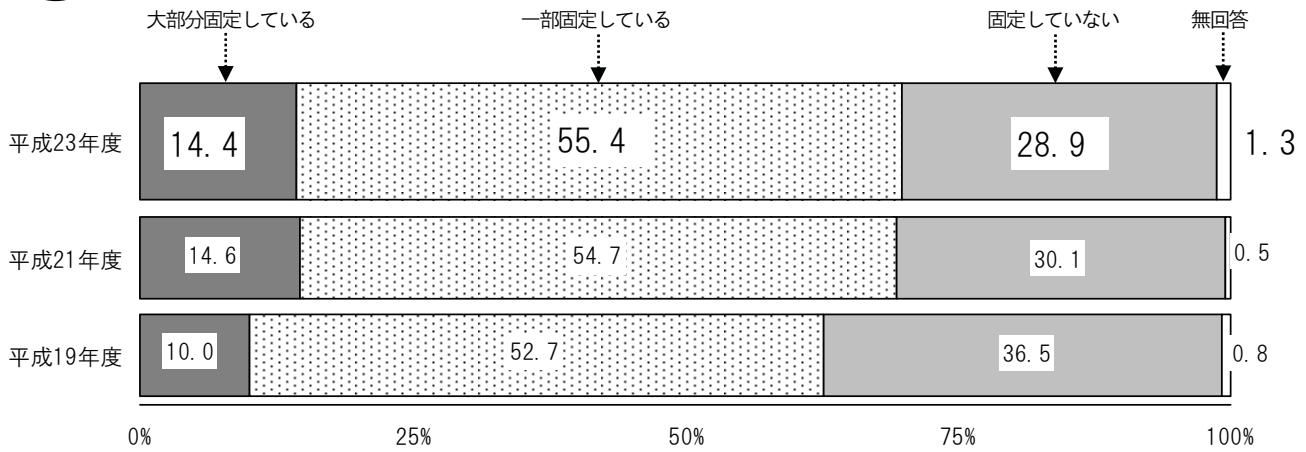


（平成19年 新潟県中越沖地震の被害）

詳しくは各市町の建築指導担当課
又は県建築安全推進課（054-221-3320）までお問い合わせください。

地震発生時に転倒・落下する家具や家電製品は 非常に危険な凶器となります。 自宅の家具類の固定は急務です。

Q 地震に備えて家具類の固定をしていますか。



確認しましょう

- ・ 重い家具は寝室に置かない。
- ・ 重い荷物は高いところに置かない。
- ・ 家具の配置を考えて安全なスペースを確保。

家具類の固定方法（例）

用意するもの

平型金具 L型金具
取付の釘 取付のヒートン
結束金具 (ベルト) 結束金具 (鎖) ファイヤー固定用金具
取付のヒートン (取付金具の径は3.0mm) 結束金具の径は3.0mm

取付の釘 (径は3.0mm) 結束金具の径は3.0mm

家具転倒防止用レール

タンスのとめかた

背の高い家具は、脚居に針金やL型金具をとめる。

柱の見えない壁にとめる場合

壁の中の柱や筋樫を探して、それに金具をとめる。または、柱などに横木（または転倒防止用のレール）をしっかりと付けて、それに金具をとめる。

トントン
ペコペコ
×

開き戸

開き戸は、中のものに併せて開きやすい。

冷蔵庫

裏側にある取手（手カケ）に固定用ベルトを巻いて固定する。

鉄筋コンクリート造りの場合

コンクリート造りの壁

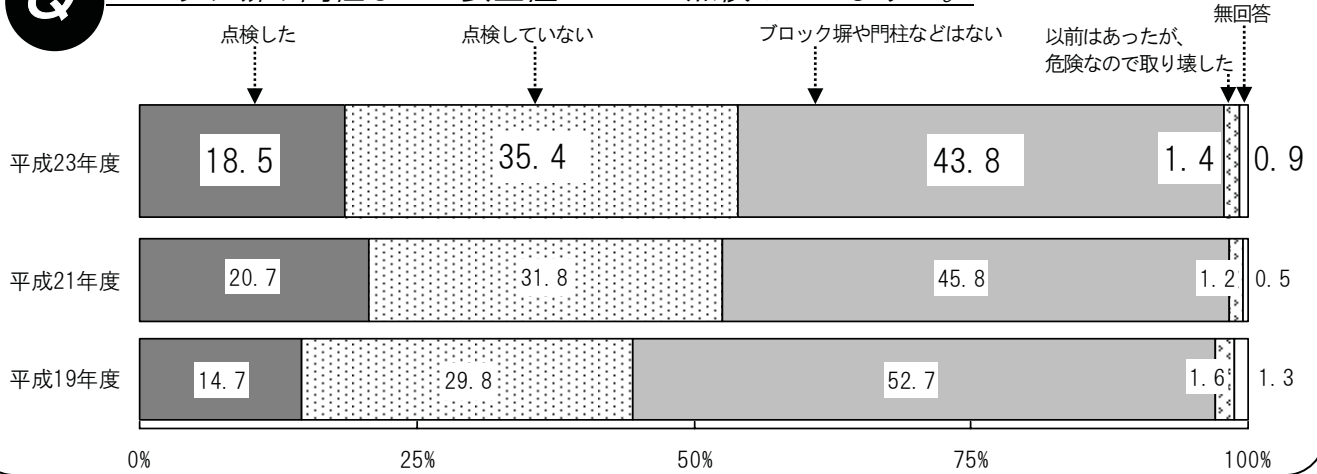
横木をとりつけてそれに家具をとめる。

アンカーボルト (横木) (詳細図)

石塀・ブロック塀が倒壊すると通行人に被害をおよぼす可能性があります。必ず点検してください。



ブロック塀や門柱などの安全性について点検していますか。

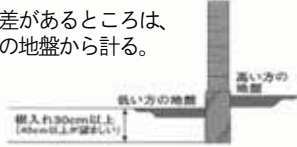


ブロック塀の5点検 (以下の5項目について点検しましょう。)

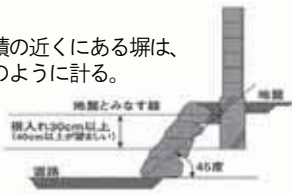
① 基礎の根入れはあるか 適・不適

コンクリートの基礎は、地盤から30cm以上根入れされている必要があります。まわりを掘って調べて下さい。
(根入れは40cm以上が望ましい)
(「根入れ」とは、基礎のうち土の中に入っている部分をいいます。)

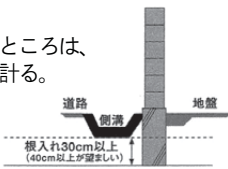
●地盤に差があるところは、低い方の地盤から計る。



●石積の近くにある塀は、図のように計る。



●側溝に沿ったところは、側溝の底から計る。



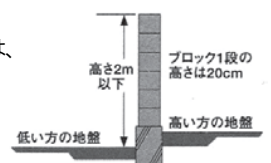
●石積の上にあるものは、根入れがないものとする。



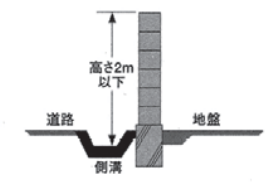
② 塀は高すぎないか 適・不適

塀の高さは、地盤から2m以下かどうか調べて下さい。

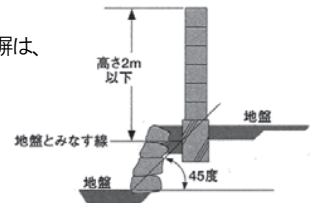
●地盤に差があるところは、低い方の地盤から計る。



●側溝に沿ったところは、側溝の底から計る。

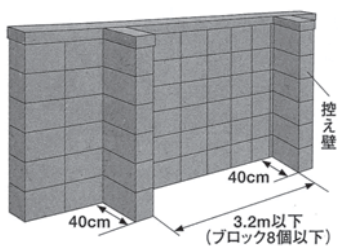


●石積の近くにある塀は、図のように計る。



③ 控え壁はあるか 適・不適

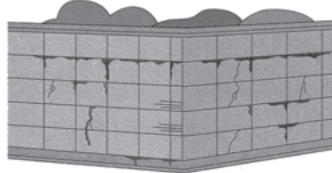
- ①控え壁は塀の長さ3.2m (ブロック8個) 以下ごとにあるか
- ②控え壁の長さは40cm 以上あるか



④ 塀の傾き、ひび割れはないか 適・不適

塀が傾いたり、ひび割れていないか、また鉄筋が錆びていないか

鉄筋の入っているところに沿ってブロックが茶色にじんじんでいたり、はじけていたら、中の鉄筋が錆びています。



⑤ 塀に鉄筋が入っているか 適・不適

直径9mmの鉄筋が次の①、②、③のように入っているか。この点検は、塀を造った施工者などと相談して行って下さい。

- ①鉄筋が、縦横とも80cm以下の間隔で入っているか。(縦筋は40cm間隔が望ましい。)
- ②縦筋は、頂部の横筋、または、基礎の下側の横筋にかぎがけされているか。
- ③控え壁の鉄筋も①②のように入っているか。

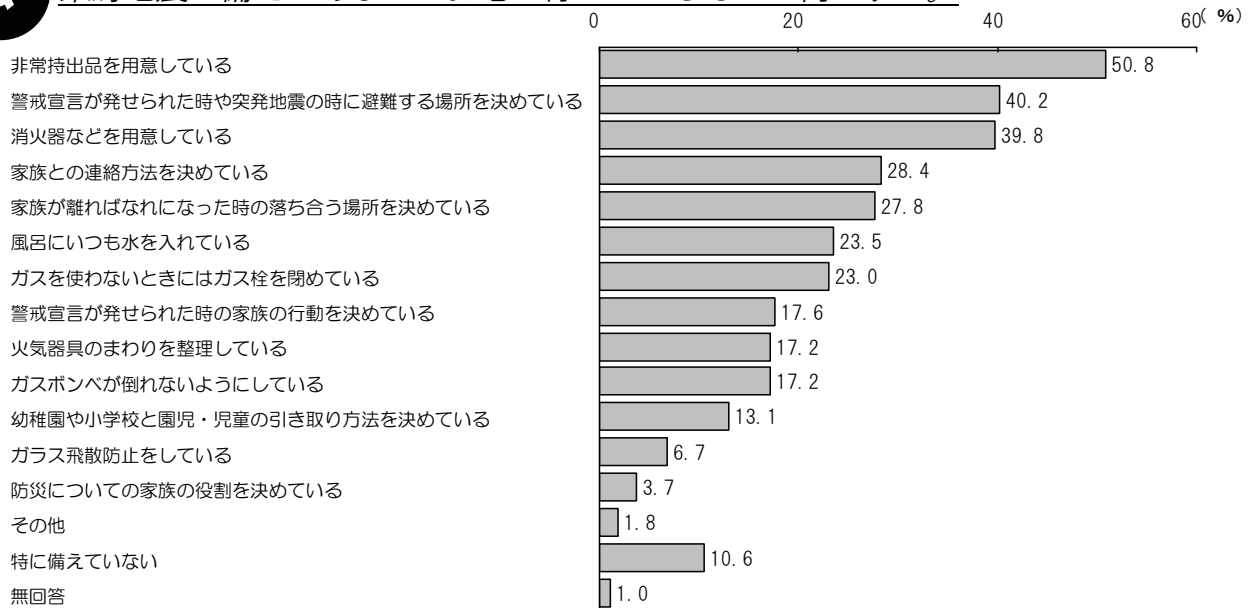
※ 点検結果に1つでも不適合があれば、そのブロック塀は危険性が大きく、改善する必要があります。

※ 市町によって危険なブロック塀の撤去や改善に対し補助を受けることができます。

自宅から災害を発生させないために、 また、地震発生時にとまどわないように、 日ごろから防災対策を実施しておきましょう。



東海地震に備えてあなたのお宅で行っているものは何ですか。



発災時には、家族が別々の場所にいたり、社会状況も混乱することが予想されます。
次の表を参考に、ぜひお宅の行動計画を作ってください。

役割分担行動表

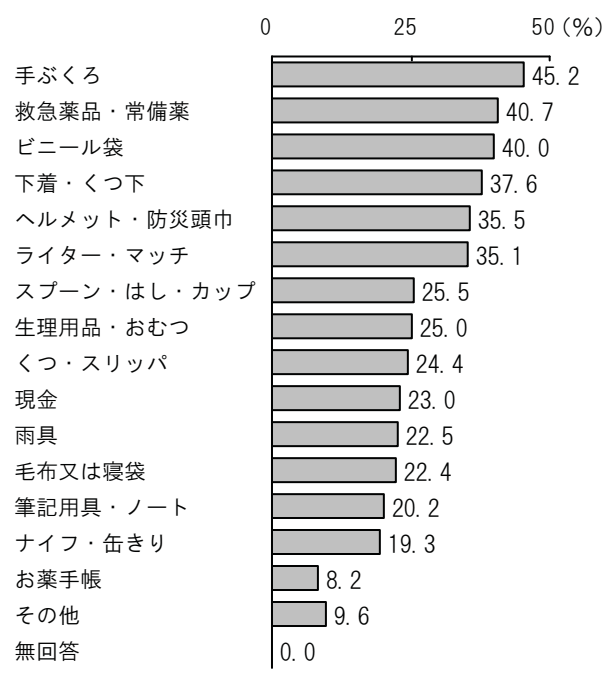
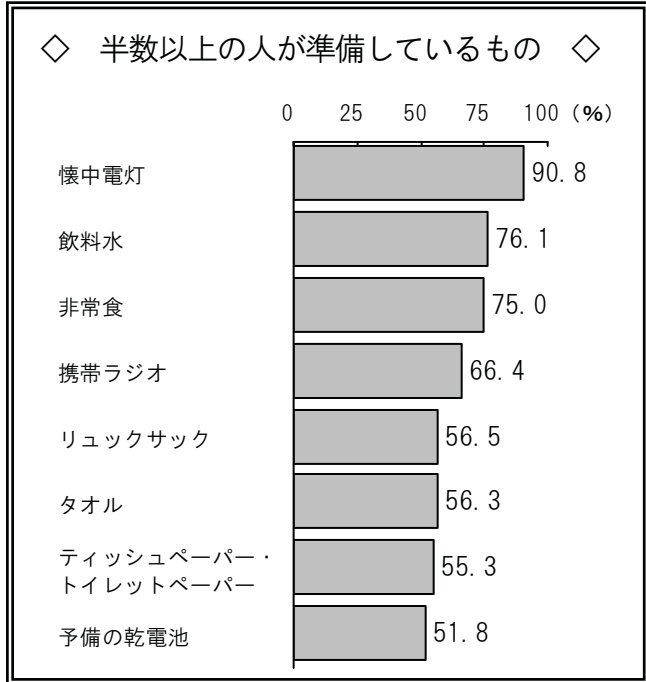
名前	ふだんの日の昼間にいる可能性の高い場所	家族の集合場所	避難所
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
<input type="text"/>	<input type="text"/>		
<input type="text"/>	<input type="text"/>		
<input type="text"/>	<input type="text"/>		
<input type="text"/>	<input type="text"/>		

★家族の役割（事前の準備も含めて）

内容	名前	内容	名前	内容	名前	内容	名前
ラジオ・テレビで情報を確認する		出入口を確保する		電気器具のコンセントを抜く		非常持出し品の確認をする	
火を消す		消火器・バケツを用意する		棚の上から物をおろす		すぐに戻ってこれない家族への伝言があれば書いておく	
ガスの元栓、プロパンガスボンベのバルブを締める		飲料水を確保する		家具などを倒れないようにする		子供や老人の世話をする	
危険物を安全なところに移す							

地震発生後のことを考えて、当面の生活に必要な物資を非常持出し用として準備してください。

Q 非常持出し品として何を用意していますか。



点検しましょう

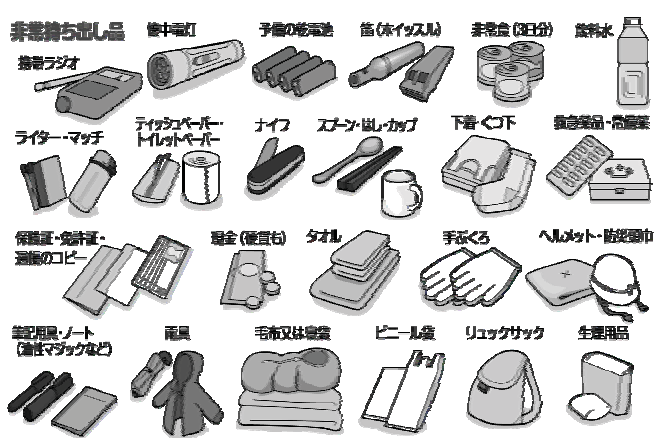
非常持出し品は、避難時にすぐに取り出せる場所に保管し、家族の人数に合わせて用意してください。当面暮らせるだけの食料・飲料水・日用品や貴重品等を準備しておきましょう。

屋外避難も想定して テントやビニールシートも！

- 赤ちゃんのいる家庭では
飲料水、ミルク、哺乳瓶、離乳食、スプーン、子ども用のお菓子、着替え、オムツ、清浄綿、おぶい紐、タオル（バスタオル）、ベビー毛布、ガーゼ又はハンカチなどを用意しましょう。
- 要介護者のいる家庭では
着替え、オムツ、ティッシュペーパー、ガーゼ、補助具の予備などを用意しましょう。
- 東日本大震災ではこんなものが役立ちました！



非常持出し品の例



このほか、履物（くつ、スリッパ等）もお忘れなく！

家族構成などを考えて、必要なものを用意しましょう。また、定期的を確認することも大切です。